

# 医療と社会 -ハラスメント風土-

日本学術会議  
科学技術振興機構

渡辺美代子

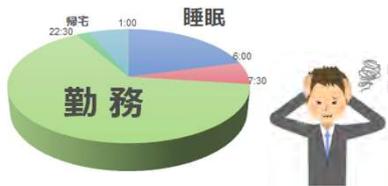


2018年10月26日  
日本学術会議公開シンポジウム  
「医療界における男女共同参画の推進と課題-医学部入試問題を含めて」

## 専門外から見た医療の世界

～北大病院の事例分析を中心に～

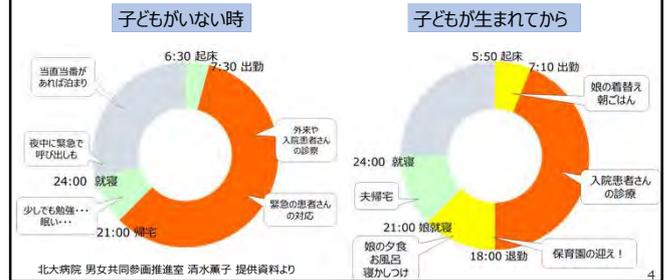
### 男性医師の生活 (北大病院 男女共同参画推進室)



医師ならばしかたない??

北大病院 男女共同参画推進室 清水薫子 提供資料より

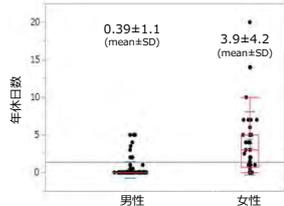
### 女性医師の生活 (北大病院 男女共同参画推進室)



北大病院 男女共同参画推進室 清水薫子 提供資料より

### 15歳未満の子どもをもつ医師の年休取得状況 (2016年)

半数以上の女性医師は子どもの病気が理由で3日以上休む

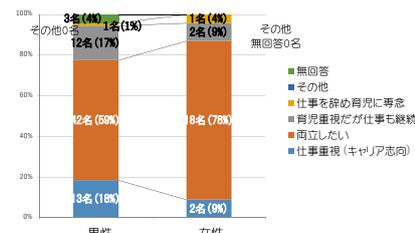


15歳未満の子どもがいる医師への質問 男性 N=121 女性 N=50

北大病院 男女共同参画推進室 清水薫子 提供資料より

### 北大医学部2年生 ワークライフバランスに係る授業におけるアンケート結果 (2016年度)

将来結婚・育児をする場合どのようなライフスタイルを選びたいですか?



北大病院 男女共同参画推進室 清水薫子 提供資料より

### 改善策「ちょっとしたこと？」

**駐車場の確保**  
 ・家→車で子供を保育園送迎→車を置きに家に戻る→病院  
**それだけで大丈夫？ 謙虚過ぎませんか？**

**院内保育施設の確保**  
 ・現在の病院附属の保育園は1日1名に限り院内敷地内でけいめい  
 ・1週間前 個人への負担を軽減し職場・地域のサポートを  
 → 充実していく必要性  
**人口縮小、少子高齢化で税金は増やせません**  
**お医者さんは経済的に余裕がある??**  
 ・保育園・ベビーシッターで育児支援医員のお給料はなくなる

**医療の側からの要請**  
 専門化した医療を支えることができる人材を育成し、母数を確保する

北大病院 男女共同参画推進室 清水薫子 提供資料より

### 日本の診療とカナダの診療 - 風邪をひいた私の体験 -

日本の場合

病院で診断してもらう

↓

風邪と診断される

↓

診察料を払い、処方箋をもらう

↓

薬局で薬をもらい、薬代を払う

カナダの場合

病院で診断してもらう

↓

風邪と診断される

↓

ゆっくり休養するよう説明  
風邪ウィルスに効く薬はないと説明

↓

同じ病気なのに、なぜこんなに  
対応が違うのさ？

男女を科学の要因として考える  
 ~表面的現象だけにとらわれない~

### Gender Summit の事例

男女共同で研究することにより男女差を考慮した研究が拡大  
多くの医療関係

男女の性差を考慮して研究開発を進めることにより、全ての人に適した真のイノベーションを創出することが可能になる (Gender Innovation by Londa Schiebinger)

<p><b>創薬の研究開発</b>          多く実験でオスの動物を使用          ⇒ 女性には効果の低い薬が開発されることがある</p>	<p><b>骨粗鬆症の診断方法</b>          女性を対象として診断法が確立          ⇒ 骨粗鬆症と診断されない男性患者が多く存在</p>
<p><b>幹細胞移植の適合性</b>          臓器移植に男女考慮なし          ⇒ 幹細胞に男女差あり、移植も女性同士、男性同士の移植が望ましい</p>	<p><b>大腸内視鏡検査の確立</b>          男性の体形を対象にして設計          ⇒ 女性の太ももを見落とす事例が多い</p>
<p><b>シートベルト設計</b>          男性の体形を前提に開発          ⇒ 交通事故において女性の方が重篤な負傷を負う率が高い</p>	<p><b>機械翻訳プログラム</b>          人の標準を男性に設定          ⇒ 女性の名前も「彼」と翻訳されることが多く「彼女」と出ることが少ない</p>

Gender Summit 資料より

